

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

東北アジアの騎馬文化と馬匹生産の研究

Horse-riding Culture and Horse Production in Northeast Asia

2. 研究代表者氏名

諫早 直人

ISAHAYA, Naoto

3. 研究期間

2019年04月 - 2020年03月 (1年度目)

4. 研究目的

4世紀の中国東北地方で成立した装飾馬具をともなう騎馬文化は、朝鮮半島を介して日本列島へと伝えられ、古墳時代中・後期の日本列島に定着するとともに、その国家形成にも大きな影響をおよぼした。古墳時代の馬具については多くの研究があり、朝鮮半島や中国東北地方の馬具についても研究が蓄積されつつあるものの、ウマの生産・供給体制についてはウマ自体の遺存例が少ないこともあり研究は遅れている。日本列島における馬匹生産はいわゆる牧との関係で論じられ、文献史料と考古資料との対比にもとづく議論がなされる一方、中国東北地方から朝鮮半島、日本列島へと騎馬の風習が拡大していくなかで、ウマの生産・飼養がどのように変化していったのかという点については、実証的な議論がなされてこなかった。本研究は、こうした問題点に鑑み、匈奴や鮮卑など東方ユーラシアの騎馬文化と比較しつつ、中国東北地方・朝鮮半島・日本列島の騎馬文化と馬匹生産について、関連する考古資料と文献史料の検討をもとに明らかにしようとするものである。

The horse-riding culture, with its decorative horse trappings, originated in the fourth century in Northeast China, then spread to the Japanese Islands by way of the Korean Peninsula. When, the horse-riding culture subsequently took root in the Japanese Islands during the middle and late Kofun period, it had a substantial impact on the development of the Japanese state. There have been many studies concerning horse trappings of the Kofun period as well as those of the Korean Peninsula and Northeast China. However, few examples of horse (bone) have yet been recovered from excavations. Previous studies of horse breeding in Japan have mostly focused on comparisons between archeological materials and historical documents. However, whether the breeding of the horses changed during the spread of the

horse-riding culture has not been studied before. This study will, therefore, focus on the production and supply of horses in the various horse-riding cultures. This study will help clarify the horse-riding culture and horse breeding of Northeast China, the Korean Peninsula, and the Japanese Islands -based on an examination of archeological materials and historical documents and comparisons with the horse-riding cultures of Eastern Eurasia, such as the Xiongnu and the Xianbei.

5. 研究成果の概要

本研究班では、2回の研究会開催を通じて、朝鮮半島と中国における馬の利用・飼育などにかんする最新の研究状況を確認した。中国の殷王朝後期に馬車とともに養馬の技術が導入されて以来、馬は国家権力・儀礼祭祀・軍事活動などにかかわる家畜として重視され、また戦国から漢代には馬車に加えて騎馬の風習も定着していった。魏晋代には鎧をはじめとする騎乗用の馬具があらわれ、4世紀以降は中国東北地方から朝鮮半島、さらに日本列島へと金銅の装飾馬具がひろがっていく。朝鮮半島の初期騎馬文化をささえた馬の飼育状況については手がかりが少ないものの、原三国時代の遺跡から検出された円形の木柵遺構が、後世の絵図との対比をもとに馬を囲った牧場施設であった可能性が提示されたほか、馬だけでなく牛の利用状況についても議論がなされた。中国においては、出土馬骨に対する理化学的分析が進み、同位体分析によって出土馬の食性が次第に明らかになり、さらにそれを文献史料や出土文字資料と対比することで馬の飼育状況に迫ることも可能となってきた。一年間の共同研究により、古代東アジアにおける馬の飼養や供給について、最先端の研究状況と資料を共有することができたのは、大きな成果である。

6. 共同研究会に関連した公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究の成果をふまえて、さらに発展させた共同研究A(若手)を来年度新たに実施する予定である。